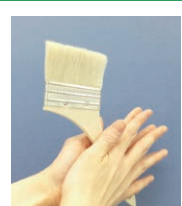


上手な刷毛の使い方

新しい刷毛をおろす時

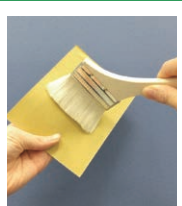
新しい刷毛を使う前には、よくしごいて抜け毛をとっておきます。抜けかかった毛をそのままにして塗装を始めると、塗装面に抜け毛が付いて、汚くなってしまいます。



柄を両手に挟んで回すと、付いていない毛が浮いてきます。



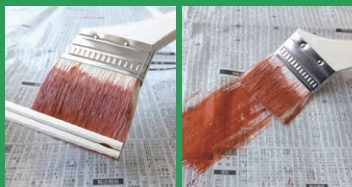
浮いた毛をしごいて抜きます。



100番ぐらいのサンドペーパーを使って毛先を揃えます。

刷毛の手入れ

刷毛に付いている塗料を割り箸などで落とし、さらに新聞紙などになすりつけて、残りの塗料をできるだけ落としておきます。



洗う時、油性塗料はペイントうすめ液で何度も洗います。また灯油で下洗いすると、うすめ液を使う量が少なくて済み、経済的です。



このままでは、せっかく洗っても次に使う時に固いことが多いので、きれいに洗った後、台所用洗剤で洗うのがコツです。そして最後に水洗いして陰干しします



豆知識

残った塗料の保管

水性塗料はきっちりと缶にふたをしておけばOKです。ただし、水を加えたものは、水が腐ってしまうので、約6カ月しか持ちません。薄める時は、別の容器に移すと良いでしょう。油性塗料は空気に触れると固まるので、ペイントうすめ液を少し入れ、混ぜずにそのままふたをしておきます。缶のふたはきつく閉めますが、プラスチックの容器はきちんとふたをすれば大丈夫です。



準備するもの



●木部用洗剤



●デッキブラシ



●軍手



●古新聞



●マスキングテープ



●皮スキ・サンドペーパーなど



●木部用パテ



●刷毛



●防虫・防腐塗料



●うすめ液



●コテ刷毛



●ペイント受け皿



ウッドデッキのメンテナンス

Q. ウッドデッキの手入れってどうすればいいの？

A. 簡単DIYでリフォームすれば、新品同様の美しさが甦ります。



- 作業の手順
- 上手な刷毛の使い方
- 残った塗料の保管
- 準備するもの

やってみよう!

準備はできましたか? 作業に便利な道具

- 木部用洗剤
- 古新聞
- 木部用パテ
- うすめ液
- デッキブラシ
- マスキングテープ
- 刷毛
- コテ刷毛
- 軍手
- 皮スキ・サンドペーパーなど
- 防虫・防腐塗料
- ペイント受け皿

STEP.1 チェック



- 全体に汚れがひどくなっていませんか。
- ところどころ塗装が落ちていませんか。
- 木部の破損・ヒビ割れや腐食はありませんか。

STEP.2 洗淨



汚れが目につくようなら、木部用の洗剤を付けたデッキブラシで、ウッドデッキやラティス・トレリスの気になる部分をこすり、汚れを落とします。



洗剤は仕様書に従い、薄めてご使用ください。

STEP.3 修復

破損・ヒビ割れの気になる部分は、木部用のパテで穴埋めをします。修復後に塗料を塗れば、新品同様の美しさになります。木のささくれなどでケガをしないように、軍手などを着用して作業を行いましょう。



破損・ヒビ割れ・老化がひどくなると、安全上の問題が生じます。ひどい場合は補修ではなく、新しいものに交換しましょう。

STEP.4 塗装

下地調整します。

汚れやホコリを十分に落とし、カビやはがれかかった塗料は皮スキ・サンドペーパーなどで取り除きます。ひどい汚れはうすめ液で拭きとり、十分に乾燥させます。また、塗料を付けたくないところは、マスキングテープや古新聞を使ってマスキングしておきます。



塗装します。



防虫・防腐効果のある塗料を使って作業を行います。

①色ムラが出ないように、塗料をよくかき混ぜ、均一にします。



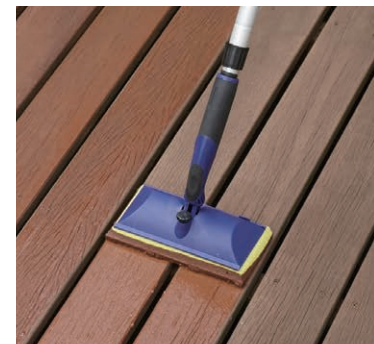
塗装中も常にかき混ぜながら作業します。



②細部の塗りにくいところから先に、刷毛で木目に沿って、たっぷりと塗料をしみ込ませるように塗ります。

③広い面はコテ刷毛で塗装します。

④1回目の塗装がよく乾いたら、再度同じ作業を繰り返します。



後始末をします。

2回目を塗り終わったら、乾く前にマスキングテープを取り除きます。使った刷毛はできるだけ早くうすめ液または刷毛洗い液で洗い、残った塗料はふたをしっかりと閉めて保管しましょう。